


























# 11月トリアだより



11月の活動

月	火	水	木	金	土
		1 音楽・絵画  スマック	2 屋外・手指  帽子	3 休み (文化の日)	4 休み
6 運動  (早降園日)	7 園外療育 (水族館)  帽子・お弁当・水筒	8 屋外・手指  帽子	9 感触・ルール  スマック	10 運動 認知課題 	11 音楽 
13 音楽・絵画 (公開療育)  (早降園日)	14 屋外・手指  帽子	15 ルール・誕生会 	16 運動 認知課題 	17 音楽・絵画  スマック	18 休み
20 屋外・手指  帽子	21 感触・ルール 	22 屋外(勤労感謝) 認知課題  帽子	23 休み (勤労感謝の日)	24 屋外・手指  帽子	25 認知課題 (お買い物ごっこ) 
27 感触・ルール 	28 運動 認知課題 	29 音楽・絵画  スマック (避難訓練)	30 屋外・手指  帽子		

専門職の来所日は下記の通りになります。

- ・公認心理師(松本): 10日(金)、11日(土)、21日(火)、29日(水)
- ・言語聴覚士(永山): 7日(火)~9日(木)、13日(月)~15日(水)、24日(金)、25日(土)
- ・理学療法士(樋口): 17日(金)、18日(土)、27日(月)、28日(火)
- ・作業療法士(大平): 6日(月)、20日(月)、22日(水)、30日(木)



- ・10月24日(火)より、**当日のキャンセル連絡は(9時まで)**をお願いします。9時以降の連絡になりますと、**昼食代(264円)**が発生致します。
- ・11月7日(火)の園外療育の詳細につきましては、後日コドモンでお知らせいたしますので、ご確認ください。
- ・16日(水)の公開療育は、外部の方が来園し、療育を見学する予定となっております。保護者の参観ではありませので、ご了承ください。
- ・22日(火)の屋外では、中央消防署南林寺分遣隊に制作で作った作品を渡しに行きます。雨天や消防署員が緊急出動している際は中止となりますのでご了承ください。



みなさん、こんにちは。深まりつつある秋を、みなさんはどのようにしてお過ごしでしょうか。今回は子どもの「聞く力」の発達についてお知らせしたいと思います。子どもの聞く、見るといった感覚は生まれた時には未熟で、身体と同じように少しずつ育っていくものです。また「聞く」とは単純に音が聞こえるだけでなく、何の音かがわかる、ことばを聞き分けることができるなどいくつかの側面があり、音が聞こえればことばを聞き取ることができるというわけでもないのです。生まれてすぐの子どもはまだ小さな音は聞き取れず、4ヶ月を過ぎる頃に保護者の声に振り向いたり、周囲の音に関心を示したりするようになります。生後6ヶ月くらいから生活している国のことばを聞くための耳、脳がつかられていきます。聴力は4歳頃に大人と同じくらいになりますが、最初は一つのまとまりとして聞いていたことばを、「い・ぬ」「り・ん・ご」と一つずつの音に分解したり、ことばの中から「い」や「ん」などの音を取り出したりできるようになるのはだいたい4歳半以降です。

このように子どもの「聞く力」はゆっくりと育ちますので、途中で、「し」と「ひ」、「そ」と「と」など似た音を聞き間違ったり、持っていることばの数が少ないので、はじめて聞いたことばを自分の知っていることばと聞き誤ったりもします(例:しょうじき→「そうじき?」)。そこで大人は、ゆっくりとした話し方、はっきりとした話し方を心がけ、口元の動きが見やすいように顔をあわせることを意識しましょう。周囲の雑音と自分(子ども)に向けられたことばを区別して聞き取れるように、子どもと会話をする時には静かな環境で話す機会を作ることも大切です。一度にたくさんのことばや長いことばを聞き取ったり、覚えたりすることが難しい場合には、短く区切って伝えたり、意味の切れ目で少し間を開けたりするのも良いでしょう。小学生でもこのような対応が必要なお父さんは意外に多いと感じています。



ただしこのような対応をしていても、時々、ことばの発達に課題のある子どもさんの中に、軽度の聴力の障害が隠れている場合や、「聞こえている」のに「聞き取れない」「聞き間違が多い」という子どもさんもいます。歯医者や眼科と同じように耳鼻科も気軽に活用して子どもの聞く力を育てることに役立てましょう。

秋の夜長、子どもさんと一緒に秋の小さな虫の声に耳を澄ませてみませんか。

言語聴覚士  
永山理香



児童発達支援センター歩路だより

「偏食の対応」

毎日のご飯作り、お疲れさまです。保護者の方から「食べてくれない」「好き嫌いが多い」などのご相談を受けますことがあります。歩路で実際に実践している食事支援をご紹介します。

実践例1) 段階を踏む。

唇につけてみる→舐める→口の中に入れる→徐々に量や食材を増やす。

実践例2) 好きな食べ物を活かす。

①好きな食べ物→苦手な食べ物(極少量)…交互に提供する。

②好きな食材と苦手な食材(極少量)を一緒に口に運ぶ。

※好きな食材で満腹になると、苦手な食材には挑戦しにくくなります。

その他) 食事環境、食事状況を見直しましょう。

- ・椅子や机の高さは合っていますか?
- ・食わず嫌いがパターン化されていませんか?
- ・大人と一緒に楽しい雰囲気の中で食事を摂りましょう。



現代はファストフード、冷凍食品など、便利なものが増えていますが、季節の食材や健康的でバランスのとれた和食を上手に取り入れながら、新たな食材に触れる機会を設けたり、おじいちゃん、おばあちゃんの知恵を聞いてみたりしてはいかがでしょうか。

